

顧客の要求に「最適」提案

■THKインテックス

STer

最前線

THKインテックス（東京都港区、植村元博社長）の主力事業の一つがロボットを用いる工場自動化（FA）ソリューションの提供だ。事業立ち上げ時から競争力を強く意識し、他社との差別化戦略を実行。「オンリーワン」の存在として顧客が抱える生産工程の課題を解決している。

「ロボットエンジニアリングの世界は特徴がなければ生き残れない。FAに至っていない労働集約型現場に答えを提供したい」と、星野京延取締役副会長は意気込む。産業用ロボットが華々しく活躍するのは工場全体のごく一部に過ぎない。そこで同社はFAに至っていない領域に、カワダロボティクス（東京都台東区）の人型協働ロボット「ネクステージ」を用いたシステムを提案。同社とは2000年代前半から関係を構築、数百台の

協働ロボットを導入した。

工場の生産工程では加工対象物（ワーク）の計測・検査といった付加価値を創出しづらい単純作業は多い。THKインテックスは全国の工場で共通するこの問題にビジネスチャンスを見だし、人の動作を再現する人型協働ロボットの導入で生産性を上げている。人とロボットの単純な等価

交換にとどまらず、同社の植村社長は「これまでの知見を生かしロボットの周辺環境を含めてエンジニアリングできるのが当社の強み」と明かす。

例えば無人搬送車（AGV）とロボットを組み合わせることで顧客の環境に最適なロボット稼働システムを構築できる。これらはカワダロボティクス製品の性能と機能を知り尽くしたTHKインテックスだからこそなせる独自技術だ。

近年はグループの中核であるTHKの直動システムとロボットを融合した「コンビネーションロボ

ット」も強化。22年の「国際ロボット展」では、水平直動軸と4軸の垂直多関節ロボットを組み合わせたシステムなどを披露した。6軸の垂直多関節ロボットでは過剰となる現場に新たな自動化手段を提供できる。植村社長は「お客さまの要求に合わせ最適なソリューションを提案する」と話す。



ット」も強化。22年の「国際ロボット展」では、水平直動軸と4軸の垂直多関節ロボットを組み合わせたシステムなどを披露した。6軸の垂直多関節ロボットでは過剰となる現場に新たな自動化手段を提供できる。植村社長は「お客さまの要求に合わせ最適なソリューションを提案する」と話す。

【企業概要】

▷所在地＝東京都港区芝浦2の12の10▷資本金＝1億円▷売上高＝非公表▷従業員＝324人▷設立＝1949年（昭24）6月